

アンケートから振り返るDPプログラム

IBグループ

1. 要旨

令和4年度は本校において、IBコースの2期生がディプロマ・プログラム（DP）を終了する年度である。各教科における約1年半に渡るATLスキルの獲得及び10の学習者像の育成を基盤とした授業の成果について、生徒によるアンケートによって振り返るとともに、1期生による同アンケート結果と比較することで経年的にDPの成果と課題を確認し、今後のDPの学びの質の向上に向けた分析を行いたい。

2. アンケート項目

アンケート項目について以下の表に示す。生徒には、最終試験終了1か月後、「ATLスキルをどの程度身につけたか」というテーマで以下のアンケートを実施した。なお、このアンケートはIB機構が明記しているATLスキル10項目及びその具体内容に基づくものである。

表1 アンケート項目

項目	質問
1. コミュニケーションスキル	相互作用を通して思考やメッセージ、情報を効果的にやりとりする。また、情報を集め、やりとりするために、言語を読み、書き、そして用いる。
2. 協働スキル	他者とともに効果的に取り組む。
3. 自己管理スキル(1) 管理・調整スキル	時間と課題を効果的に管理する。
4. 自己管理スキル(2) 情動スキル	心理状態の管理。
5. 自己管理スキル(3) 振り返りスキル	学習プロセスを(再)検討する。ATLスキルを選択し用いる。
6. リサーチスキル(1) 情報リテラシースキル	情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する。
7. リサーチスキル(2) メディアリテラシースキル	考えや情報を用い、創造するためにメディアと付き合う。
8. 思考スキル(1) 批判的思考スキル	論点や考えを分析し、評価する。
9. 思考スキル(2) 創造的思考スキル	今までにないアイデアを生み出し、新しいものの見方を検討する。
10. 思考スキル(3) 転移スキル	スキルと知識を多角的な文脈において用いる。

3. アンケート結果

アンケート結果について、比較を目的として、令和3年度及び令和4年度の結果を以下の表に示す。なお、表中の平均値は、「5. とても身に付いた」を5点、「4. やや身に付いた」を4点、「3. どちらともいえない」を3点、「2. あまり身に付かない」を2点、「まったく身に付かない」を1点として加重平均したものである。

表2 アンケート結果(令和3年度 n=23、令和4年度 n=19)

項目	2021								2022								伸び率 (②/①)
	平均 ①	選択肢	5 ・ と て も 身 に 付 い た	4 ・ や や 身 に 付 い た	3 ・ ど ち ら と も い え な い	2 ・ あ ま り 身 に 付 か な い	1 ・ ま っ た く 身 に 付 か な い	合計	平均 ②	5 ・ と て も 身 に 付 い た	4 ・ や や 身 に 付 い た	3 ・ ど ち ら と も い え な い	2 ・ あ ま り 身 に 付 か な い	1 ・ ま っ た く 身 に 付 か な い	合計		
1	3.78	件数	3	15	2	3	0	23	4.58	11	8	0	0	0	19	1.2	
		割合	13%	65%	9%	13%	0%			58%	42%	0%	0%	0%			
2	3.96	件数	6	13	1	3	0	23	4.79	15	4	0	0	0	19	1.2	
		割合	26%	57%	4%	13%	0%		79%	21%	0%	0%	0%				
3	3.52	件数	3	10	7	2	1	23	4.21	11	3	3	2	0	19	1.2	
		割合	13%	43%	30%	9%	4%			58%	16%	16%	11%	0%			
4	2.96	件数	2	4	10	5	2	23	3.74	6	5	5	3	0	19	1.3	
		割合	9%	17%	43%	22%	9%			32%	26%	26%	16%	0%			
5	3.48	件数	3	10	6	3	1	23	4.37	8	10	1	0	0	19	1.3	
		割合	13%	43%	26%	13%	4%			42%	53%	5%	0%	0%			
6	3.96	件数	4	15	3	1	0	23	4.68	13	6	0	0	0	19	1.2	
		割合	17%	65%	13%	4%	0%			68%	32%	0%	0%	0%			
7	3.96	件数	5	14	3	0	1	23	4.58	11	8	0	0	0	19	1.2	
		割合	22%	61%	13%	0%	4%			58%	42%	0%	0%	0%			
8	4.00	件数	7	10	5	1	0	23	4.58	12	6	1	0	0	19	1.1	
		割合	30%	43%	22%	4%	0%			63%	32%	5%	0%	0%			
9	3.83	件数	4	11	8	0	0	23	4.37	11	5	2	1	0	19	1.1	
		割合	17%	48%	35%	0%	0%			58%	26%	11%	5%	0%			
10	3.83	件数	4	12	6	1	0	23	4.21	8	9	1	0	1	19	1.1	
		割合	17%	52%	26%	4%	0%			42%	47%	5%	0%	5%			

表2の結果から、1期生と比較すると全ての項目において2期生の生徒の方がATLスキルが向上したと感じていることが分かる。特に、「2. 協働スキル」では、多くの生徒は「5. とても身に付いた」と回答しており、高い平均値となっている。また、同様に「6. リサーチスキル(1)」も高い平均値となっていることから、各授業がアクティブラーニングの形式で行われており、議論の機会を多く設定していることによってこれらのスキルが育成されていることが推測される。

また、昨年度からの伸び率に注目すると、「5. 自己管理スキル(3)」の平均値は1.3倍に伸びている。本校では、授業改善のポイントとして「振り返り」の設定を推奨しており、生徒のATLスキルにおいてもその成果が伺えたと考える。

一方、昨年度からの改善は見られたものの「4. 自己管理スキル(2)」においては、全項目の中で最低の平均点となった。この背景には、IBプログラム特有の課題の多さによって生徒が常に多忙感を持っていることが伺える。また、自身の学びの現状と目標とのギャップにより心理的ストレスを抱える生徒も散見され、メンタルマネジメントに課題を感じている生徒がいることも事実である。これらの課題については、IBグループとしても認識しており、要望に応じて担任やスクールカウンセラーによる相談等を行っている。また、各教科においても日々の学習の中で、段階的な達成感や成功体験によるモチベーション向上の機会を取り入れる工夫が求められる。さらに、家庭との連携も重要であり、学習面のみならず、生徒の生活面からも心理的サポートを意識する必要がある。来年度も引き続き連携を強化していく所存である。

4. 生徒の声

アンケートでは、生徒に対し、10のATLスキルのうち、DPの学習を通して特に伸ばすことができたと感じているものを少なくとも1つ、最大で3つ選んでもらい、さらにそれぞれの振り返りコメントを回答してもらった。その内容について以下にまとめる。

表3 特に伸ばすことができたと感じているATLスキル

特に伸ばすことができたと感じているATLスキル	割合
1. コミュニケーションスキル	11%
2. 協働スキル	18%
3. 自己管理スキル(1)	18%
4. 自己管理スキル(2)	5%
5. 自己管理スキル(3)	7%
6. リサーチスキル(1)	9%
7. リサーチスキル(2)	5%
8. 思考スキル(1)	16%
9. 思考スキル(2)	9%
10. 思考スキル(3)	2%

n=44

表3より、特に「2. 協働スキル」、「3. 自己管理スキル(1) 管理・調整スキル」、「8. 思考スキル(1) 批判的思考スキル」について生徒が特に伸ばすことができたと感じていることが分かる。以下に生徒のコメントの抜粋を示す。

「2. 協働スキル」が特に伸びたと感じている生徒の声

Aさん

「学習の中でディスカッションを頻繁に行ったため、他者の意見を受け入れ、お互いが納得できる結

論を見つける力が身に付いた。相手に自分の意見を効果的に伝える方法を学ぶことができた。」

Bさん

「中学校までは新聞を自分で作ったりということが多かったけれど、IBでは効率的に勉強するために情報を共有しあったり、プレゼンを作ったりと他者と協力することが特に多かった。また、CASやTOKといったコア科目では話し合いを通じて自分の考えを整理することができたので、協働スキルが最も重要で特に伸ばすことができたものだと感じる。」

「3. 自己管理スキル(1) 管理・調整スキル」が特に伸びたと感じている生徒の声

Cさん

「これまででない量の課題がある中、睡眠時間を十分に確保し、かつ部活とも両立させるため、いかに効率的にかつ不足が無いように課題を進めるのかを常に考えながら学校生活を送った。」

Dさん

「IB生活の中で、カレンダーやリマインダーを用いて自身の予定を管理するようになった。1つのタスクを細分化して1つずつクリアしていくなどの習慣が身についたから。」

「8. 思考スキル(1) 批判的思考スキル」が特に伸びたと感じている生徒の声

Eさん

「IBでは批判的な思考が求められ、培われる。批判的な視点を身につけた結果、今は日常生活の中で常に批判的な視点から物事を見て、考察して、捉えることができるようになった。また、自身の思考を絶対として捉えずに、自身の考えや主張を批判的な視点から考えることでより客観的に捉えることができるようになったと感じる。」

Fさん

「TOKや各教科での議論を通じて様々な視点や複数の論点を踏まえることを学び、より多角的な考えをまとめることができたと感じているため。また、様々な文献や他者との意見交換を通じて複数の見方を取り入れることを実践したため。」

5. まとめ

アンケート結果から、多くの生徒がDPの学習を通して、協働スキルや自己管理スキル、思考スキルといった多様な能力を身に付けることができた実感していることが分かった。さらに、生徒の声から、これらの成果の背景として、日々の学習に対する真摯な取り組みの積み重ねや試行錯誤、葛藤の様子が伺えた。また、多くのスキルを獲得している一方で、心理状況やメンタルマネジメントにおいて課題を感じている状況も示唆された。

ATLスキルの獲得について肯定的な回答が増加した要因としては、DPのカリキュラムを実施するに際し、各教科の教員が議論や探究といった協働的で主体的な学びのファシリテイトを意識的に実践したということが挙げられるだろう。これらの取り組みは、平成30年度改訂の学習指導要領の「どのように学ぶか」における「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善」につながるものであり、IBコースだけでなく国際科の授業に対しても有益なフィードバックが期待できる。

また、生徒の学習に対する心理的負荷については、今後も注意深く見守っていく必要がある。生徒が課題やストレスに前向きに対処できるよう、目的意識の再確認やメタ認知を通じて生徒が段階的に達成感を得られるような指導も効果的だと考える。来年度以降も、引き続き学校と家庭が連携し、学習面と生活面のサポートを充実させることで、生徒の心理的な成長を促すとともに、更にATLスキルを充実させることを期待したい。